

安全報告書

スキージャム勝山

バラエティークウッドリフト	(法恩寺第1クウッドリフト)
ファンタジークウッドリフト	(法恩寺第2クウッドリフト)
イリュージョントリプルリフト	(法恩寺第3トリプルリフト)
イリュージョンBクウッドリフト	(法恩寺第4クウッドリフト)
イリュージョンAクウッドリフト	(法恩寺第5クウッドリフト)
バラエティーペアリフト	(法恩寺第6ペアリフト)
ファンタジーペアリフト	(法恩寺第7ペアリフト)
ファミリーペアリフト	(法恩寺第8ペアリフト)



1. 利用者の皆様へ

日頃より、スキージャンプ勝山をご利用いただき、また弊社索道事業に対しご理解をいただき、誠にありがとうございます。

弊社は、スキー事業理念において【お客様の安全確保】を第一に掲げ、各索道設備における点検整備の実施・強化、法令遵守の徹底など、安全輸送に最大限努めております。

2024年度につきましては、ラニーニャ現象の影響により、豊富な積雪に恵まれて良好なゲレンデコンディションとなり、多くのお客様にご利用いただきました。また、インバウンド需要の高まりにより、一部地域では外国人観光客の増加が顕著で、地域経済への波及効果も大きくなっております。

今後につきましても、お客様に安心してご利用いただけるように、安全かつ清潔な施設整備をはじめ、さらなる上質なサービスを提供して、存分にお楽しみいただけますよう、全社一丸となり努力いたしてまいります。

本報告書は鉄道事業法に基づき、輸送の安全確保のための取組みや安全の実態について、自ら振り返るとともに広くご理解をいただくために公表するものです。みなさまからの声をさらなる輸送の安全に役立てて参りたく、積極的なご意見を頂戴できれば幸いです。

勝山高原開発株式会社

代表取締役

齋藤 聡

2. 安全基本方針

当社のスキー場事業理念の第一は安全確保です。「安全基本方針」を次のように掲げ、社長以下従業員全員に周知、徹底しております。

- 1) 全社一丸となり輸送の安全の確保に努め、「安全を最優先」に行動します。
- 2) 輸送の安全に関する法令及び規程類を遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
- 3) 憶測に頼らず確認の励行に努め、疑義がある時は最も安全な取扱いをします。
- 4) 事故・災害等が発生したときは、その状況を冷静に判断し、人命救助を最優先に行動し安全適切な処置をとります。
- 5) 輸送の安全に関する知識・技能向上に努め、常に問題意識を持ち継続的な改善を図ります。

3. 索道運転事故発生状況

1) 索道運転事故

2024年度は、国土交通省への人身傷害事故2件の報告をしました。

【概要1】 法恩寺第1クワッドリフト

索道係員が索道技術管理者に乗客の落とし物について報告をするため、法恩寺第1クワッドリフト起点山麓緊張停留場～1号支柱間を横断歩行した際、不注意により頭部と搬器が接触し負傷した。再発防止対策として運転中の線路横断をしないことを指導した。

【概要2】 法恩寺第6ペアリフト

索道係員が終点折返停留場にて乗客の降車補助をしようとした際、乗客が前のめりの姿勢になっていることを確認せずに搬器の後方からセフティバーを上げたため、乗客の顔面にあたり歯が折れる負傷した。再発防止対策として係員がセフティバーを上げる時は乗客に声掛けを行うことの指導した。

上記2件ともに事故発生後、安全管理体制及び運転取扱について見直しを図り、再発防止のため施設の改善と全従業員の再教育を実施しました。

2) 災害（地震・暴風・豪雪など）

2024年度は、災害による運行停止はありません。尚、強風による運行停止は安全確保のため、状況により実施しました。

3) インシデント（事故の前兆）

2024年度は、国土交通省へのインシデント報告はありません。

4. 安全確保のための取組

1) 安全重点施策

当社では、安全重点施策として年間、中期、長期の整備計画を作成しています。

2024年度の主要整備計画項目

第1クワッドリフト	通常整備、握索機解体整備（全数143台）、支えい索更新 支柱端子箱更新（1・14・26・27号支柱）
第2クワッドリフト	通常整備、握索機更新（全数111台）、 支柱端子箱更新（1・12・13・14・24・25号支柱） 支柱受索装置更新（3・4・8・9・17号支柱空線側）
第3トリプルリフト	通常整備、搬器背面・座面ウォームシート交換、 主電動機、減速機分解整備点検
第4クワッドリフト	通常整備、押送タイヤ交換
第5クワッドリフト	休止中
第6ペアリフト	通常整備、山麓駅舎ドームポリカ交換
第7ペアリフト	通常整備、搬器背面・座面ウォームシート交換
第8ペアリフト	休止中

通常整備：全支柱点検整備・握索機点検・機械装置整備点検、主減速機・電動機等軸受検査

2025年度の主要整備計画項目

第1クワッドリフト	通常整備、押送ベルト交換 常用制動機整備、支えい索切詰工事、支柱受索装置更新（1号支柱実空線）
第2クワッドリフト	通常整備、握索機解体整備（全数111台）、握索機更新（27台） 常用制動機整備、押送ベルト 場内設備握放索レール鋼板更新（4か所） 支柱受索装置更新（5・6・10・11号支柱空線側）
第3トリプルリフト	通常整備、サイリスタ盤、制御盤更新
第4クワッドリフト	通常整備
第5クワッドリフト	休止中
第6ペアリフト	通常整備
第7ペアリフト	通常整備
第8ペアリフト	休止中

通常整備：全支柱点検整備・握索機点検・機械装置整備点検、主減速機・電動機等軸受検査

2) 人材教育

当社では、輸送並びにお客様の安全確保に役立つよう、シーズン営業開始前及び営業期間中について、社員または経験者の指導により施設の仕様、リフト運行取扱についての安全教育を実施しています。また、社内外の勉強会、研修により技術力向上に取り組んでいます。

* 東急グループ索道技術管理員中央研修会

(実施日5月29日～31日 受索装置センター調整、索条スプライス講習 参加者2名)

* 自社研修会

(実施日7月8日～12月17日 AED講習 計4回 参加者19名)

(実施日12月10日～1月15日 除雪機取扱研修 計3回 参加者31名)

(実施日12月18日～3月7日 勤務前研修 計24回 参加者61名)

【社長訓示】



【除雪機取扱受講写真】



【リフト勤務前研修】



【AED講習】



3) 訓練

スキーシーズン前及びシーズン中にリフトの救助訓練を実施しています。

救助訓練実施状況

* 冬季救助訓練

(実施日12月18日～3月7日 計3回 参加者34名)

* 予備原動機切替訓練

(実施日10月28日～12月13日 計4回 参加者8名)

【冬季シーズン前救助訓練】



【予備原動機切替訓練】



【冬季シーズン前救助訓練】



【予備原動機切替訓練】



4) 安全向上への積極的な取組

* 監視カメラの設置

利用者の安全確保のため基幹リフトの乗り場または降り場に監視カメラを設置しています。

* 接客マナーの向上

索道業務マニュアルの細部を見直し業界No.1の接客を目指します。

* 滑走時のヘルメット着用の啓発

お客様へのヘルメット着用の推奨とスタッフの着用を徹底しています。

5) 自然災害への対策

当社では、甚大化しつつある自然災害に対して事前の予防対策を実施すると共に、緊急事態の対応策を整備して、スタッフの教育・訓練に努めています。

また、集中豪雨や落雷等の異常気象に備えて、気象専門会社より情報提供を受け事故防止対策を取っています。

6) 衛生管理の徹底

当社では、感染予防の対策をはじめとし各所の定期清掃や消毒等の衛生環境の保全に努め、更にスタッフの衛生管理の徹底を行っています。

7) 現地事業所の監査の実施

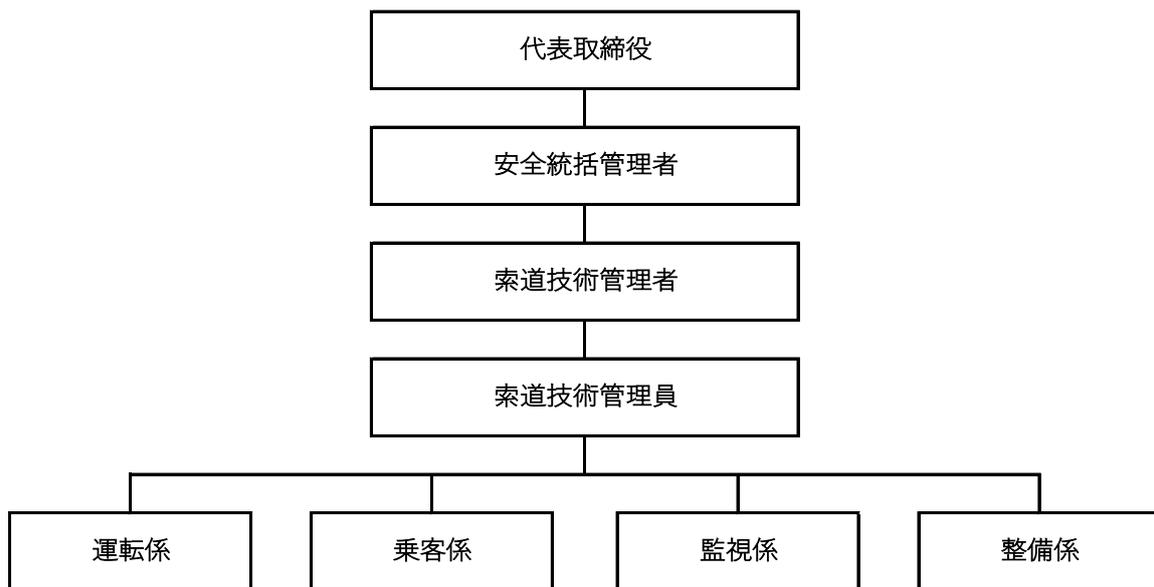
社内及びグループ事業所の協力により各事業所相互において安全管理の実施状況確認と見直し・改善を毎シーズン行っています。

5. 安全管理体制図

2021年2月1日の鉄道事業法施行規則の一部改正に伴い、2021年2月に「安全管理規程」を改正し、社長をトップとする安全管理体制を構築しております。この組織の中でそれぞれの責務を明確にした上で安全確保に努めています。なお、各管理者の役割は下記の通りです。

社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	索道事業の輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
索道技術管理者	安全統括管理者の指揮の下、索道の運行の管理、索道施設の保守の管理、その他の技術上の事項に関する業務を統括管理する。
索道技術管理員	索道技術管理者の指揮の下、担当する索道の運行の管理、索道施設の保守の管理、その他の技術上の事項に関する業務を管理する。

【体制図】



6. 終わりに

安全管理規程に則り、安全の確保を第一に掲げ努力してまいりました。これをふまえ、来シーズンもお客様が安全・安心・快適にご利用いただけますよう、設備の充実、整備、運行管理等を実施し、安全で快適な索道運行を目指し、さらなる安全管理の向上を図ってまいります。この報告書を2024年度の安全報告書とさせていただきます。